

館林紬「今」に合わせ再興

市内有志が新プロジェクト

館林市の伝統的な綿織物、館林紬つむぎの魅力を新たな形で提供しようと、市内の有志が「館林紬2.0」と題したプロジェクトを進めている。織元が途絶えて消滅が懸念される中、「単なる再興でなく今の生活で使われる形にしたい」と、新時代の反物を目指し生産や活用の方法を模索している。今後は組織体制を整え、県内の事業者にも機織りの協力を求めることなどを検討している。



生活に根差した反物目指し奔走

プロジェクトの中心はホテル経営の安楽岡紀子さん(46)と一級建築士の中村喬さん(57)、バンクグラデシユと館林を拠点にアパレルブランドを運営する飯塚はる香さん(33)。

館林市史などによると、館林地域は綿花栽培が盛んで江戸時代から農家の副業として機織が行われ、さまざまな織物が生まれた。中でも館林紬は現在に続く伝統工芸品となった。唐棧織

プロジェクトについて語り合う(右から)安楽岡さん、飯塚さん、中村さん

と呼ばれるしま模様などが特徴。

同市の日本遺産「里沼」の構成資産の一つにもなっているが、現在は生産者がいない。市内で唯一扱う山岸織物(同市仲町、山

岸清社長)の在庫の反物で、着物や小物などの製品が作られている。「消滅するのは目に見えている」(安楽岡さん)と、街づくり会社などで交流のある中村さんらと再興に着手した。安楽岡さんと旧知の中村山岸社長から昨年10月、使われていない建物を拠点として提供を受けた。「伝統文化を新しい切り口で伝えたい」(中村さん)と、プロジェクトを館林紬の「バージョン2.0」と位置付けて活動をスタートさせた。

方針を探る中、本紙記事で飯塚さんの活動を知り、服飾の専門家として加わってもらった。

飯塚さんは「何より柄がかわいい」と第一印象を語る。高校卒業まで館林で暮らしていたが存在を知らなかったといい、「若い人が目を向けるような価値や使われ方を見いだしたい」と話す。

本県など北関東3県警

巡査3人飲酒運転

処分受け退職

群馬、茨城、栃木各県警に所属する男性巡査3人が

3県警の捜査関係者によると、3人は1月28日午後

このうち茨城県警の巡査(21)が、栃木県内で自動速

聞き取りを実施し、いずれも飲酒後に車を運転したと認められた。

群馬県警の巡査は4月26日、酒の酔いがさめていないのを認識しながら車を運転したとして、本部長訓戒を受けた。栃木県警の巡査も同28日、飲酒運転したとして、本部長訓戒となった。

将来 組織体 事業者 の事業 針だ。 病的な 物以外 れば「 プロ スタ やス 発信し